二〇二六年度　神戸女学院大学
心理学部　心理学科　小論文　試験問題

（解答はすべて解答用紙に記入すること）

著作権者の許諾がないため、本文の掲載は割愛します。

（小塩真司『性格とは何か』　ただし一部変更した箇所がある）

問一　本文における性格の「類型論」と「特性論」をそれぞれ説明した上で、それらに対する著者の立場をまとめ、あなたの考えを論じてください（四〇〇字以上五〇〇字以内。句読点を含む）。

問二　性格を測定する際には、どのような点に注意するべきか、著者の見解を三五〇字以上五〇〇字以内でまとめてください（句読点を含む）。

二〇二六年度　神戸女学院大学
心理学部　心理学科　小論文　解答用紙
（1）

問一

100
200
300
400
500

入試制度名

受験番号

解答用紙の受験番号と受験票の受験番号とを照合すること

二〇二六年度　神戸女学院大学

心理学部　心理学科　小論文　解答用紙

（2）

問二

500　400　300　200　100

入試制度名

受験番号

解答用紙の受験番号と受験票の受験番号とを照合すること

神戸女学院大学心理学部　2026 年度　小論文解答例
（帰国子女、社会人、外国人留学生、国際バカロレア）

問 1
類型論とは、人間をいくつかのグループに分類して性格を捉える方法であり、全体をざっくりと表現するのに適している。一方、特性論とは、個人の中に混在する複数の性格要素をそれぞれ程度や量で表現する方法であり、人間の特徴や変化を詳細に描くことができる。これらに対し著者は、どちらか一方が優れているわけではなく、状況に応じて両者を使い分けるべきだという立場をとっている。私はこの著者の立場に賛成である。現代社会において私たちは、他者の多様な個性を尊重することが求められる。その際、特性論的な視点を持てば、相手の多面的な性質をグラデーションとして捉え、ステレオタイプに囚われない柔軟な理解が可能になる。しかし同時に、初対面の相手や大勢の人間を迅速に把握する必要があるビジネスなどの場面では、類型論による大まかな分類が効率的なコミュニケーションを助けることもある。したがって、両者の長所と短所を正しく認識した上で、目的や場面に応じて適切に補完し合いながら使い分ける姿勢こそが、複雑な人間関係を豊かにするために重要であると考える。(456 字)

問 2
著者は、性格を測定する際には「信頼性」と「妥当性」という二つの観点に沿って、科学的な証拠に基づき慎重に行うべきだと主張している。第一に、測定値がどれくらい安定しているかという「信頼性」に注意しなければならない。時間を越えてもある程度安定して同じ結果が測定できるか、また、特定の性格特性を測定するために用意された複数の質問項目が、回答者において大体同じような傾向の得点を示すかを確認する必要がある。第二に、本当に測りたい内容を測定できているかという「妥当性」への注意が必要である。測定したい性格特性の概念定義を明確にし、そこに含まれるべきではない無関係な要素を排除しなければならない。例えば、内向性を測定する際に、概念の定義から外れる「落ち込みやすさ」や「不安」といったネガティブな感情の要素を混入させてはならない。一般の心理ゲームのように「なんとなく」作られているものと異なり、学問的に検証された質問項目の場合、論文の中に信頼性と妥当性の証拠が明記されている。(430 字)